



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲 む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
農業高校 グローバル アグリハイスク ール宣言 ○○○○○ 地地地地グ 域域域域口 防交環社 災流境会カ をのを・ル 推抛守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす与材 校学るすを 校学る育 校学て 校る学 校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	農業食品 科	3年間を見通したキャリア教育の充実	生徒の進路実現に向けて、キャリア・パスポートの活用や進路説明会の実施、応募前職場見学の実施により適性の明確化を図る。	4、8	A	体験的な活動を行い、進路実現に向けて視野を広げさせる。	
			農業食品 科	教育相談の充実	学習環境の整備をするためにSC、SSW、訪問相談員による教育相談を行う。	4、8	A	個に応じた対応ができるよう、関係機関と連携を図りながら取り組む。	
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	グローバル教育、 国際交流						
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、 GAP、経営	農業食品 科	地域に貢献する学科作り	夏季休業中に取得した農業用ドローンの免許を活用し、地域のJAと連携し、地域の圃場での農業用ドローンを用いた農薬散布を行う。	4、 8、9	C	天候やスケジュールを調整し、地域と連携を図っていく。
				農業食品 科	GAP教育の推進	GAP教育を行い、福岡県GAP認証の取得を行う。	12	B	GAP教育を行い、農場の環境や安全に配慮した実習を行う。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業 化、 食農教育、経営、 HACCP	農業食品 科	6次化産業商品の開発	地域や校内で栽培したタマネギの規格外品を有効活用した、タマネギドレッシングの製造・販売を行う。	12、 15	A	実習生産物を有効活用し、商品づくりに取り組む。
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、 循環型農業、循環型社 会	農業食品 科	地域景観づくりへの取り組み	年間2回、地域にプランター設置や花植え活動を行い、地域交流を行う。また、社会福祉協議会と連携し、町内の景観作りを行う。	3、11、 15	B	生徒や保護者とプランター製作を行った。次年度も、地域に設置し景観づくりを行っていききたい。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産 物、 地域交流、食農教育	農業食品 科	地域社会の発展と活性化に貢献できる教育活動	科目「グリーンライフ」において、年間4回、地域の販売施設で農産物販売を行う。	8、12	B	授業内で3回の販売実習を行った。地域のイベントにも参加し、実習製品展示販売を行う。
			農業食品 科	地域交流	地域の保育園及び小・中学生等の農業体験や食品製造体験を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。	4	A	近隣小学校との交流は9回行うことができた。食品製造体験も継続して行っていく。	
7	Society5.0の時代に 応じた教育	スマート農業、 ICTを用いた学習	農業食品 科	農業用ドローンの資格取得	校内で農業用ドローンの資格を取得できるよう、産業用マルチローター教習施設の認定を受け、ドローンスクールを開講し、生徒がオペレーターライセンスを取得できるようにする。	4、9	E	飛行申請が行えず、取得することができなかった。許可申請を行い、免許取得に取り組む。	
8	地域防災を推進する教育	地域防災、多面的機能	農業食品 科	ワンヘルス教育の推進	ワンヘルス教育の推進を行い、啓発活動に取り組むことで人と動物及び環境の健全な在り方を考え自主的に判断して行動する力を高める。	3、4、 11、14、 15	B	科内の一部の生徒が取り組んだ。全体で取り組むことができるよう、計画を行う。	

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた